

清末民初上海における中国語新聞の日本広告と 社会生活様式の変遷（1861年～1914年）

謝 薇

一 はじめに

上海が対外開放される以前、上海は中国の各都市と同様な都市であり、民衆の生活様式も家族を中心にするものであった。人々の社交活動は家族、隣近所の間でお茶を飲み、世間話をすることなどの伝統的な活動であった。当時の上海民衆の社交の範囲は大変狭かった。農閑期或いは正月等の祝日、縁日と祭り等のみに公共的な娯楽活動があった。¹埠頭が対外開放された後、日本広告から見る社交場は料理店、茶館、酒場、劇場等がある。日清戦争以後、日本広告において各種類の社交場は、雨後の竹の子のように現れてきた。公共的な娯楽場所が発展するにつれて、上海民衆の社会生活の様式が大きく変化していった。上海民衆の社会生活は、もう家族を中心にするものに限らず、個人を中心にして公共的な社交場における社会生活に推移した。

ここで述べる社会生活様式とは、人々の交際の様式、人間関係、社交活動及び社会の風習等である。²本論文の重点は主に社交様式、社交活動と社交場の面を中心に、具体的には上海民衆の社交活動の形式、範囲、内容、場所等の変遷について考察している。とりわけ日本広告から見てみたい。日本広告と上海民衆の社会生活様式の関係は、日清戦争を時間軸として前後に大きな違いがある。

そこで本論文は、1861-1872年間の『上海新報』そして1872-1914年間の『申報』に見える日本の社交場の広告を対象として、日清戦争を時間的基軸にして、上海民衆の社会生活様式の変遷に視角をあて、日本広告が上海民衆の社会生活様式の変遷との関係について考えてみたい。

二 日清戦争以前の日本広告と社会生活様式の変遷

戦前社会生活様式と相関する日本広告は、主に料理店、茶館、酒場、劇場等の社交場の広告

附記 謝薇：中国南昌大学新聞与伝播学系講師。

¹ 鄭大華、彭平一『社会結構変遷与近代文化転型』、四川人民出版社、2008年4月、217頁。

² 李長莉『晚清上海社会的變遷』、天津出版社、2002年8月、7頁。

である。これらの広告からみれば、上海民衆の社会生活様式の変遷は伝統性から現代性までの進化であると言える。次にその具体的な事例を挙げながら深く考察していきたい。

(一)料理店

上海が対外開放された後、商業が発展するにつれ、上海民衆の物質生活と消費生活は豊かになった。特に、商人達の間には富をひけらかすことが流行していた。金銭は人間関係の一要素としてその重要性が高まった。そのため享楽を追求するリソース観念と富をひけらかす消費行為は上海民衆の社交活動にとって主流になり、上海民衆の社会生活の様式は変化しつつあった。例を挙げると当時の上海において外国の料理店での社会活動が大変流行していた。1880年代から、上海において西洋料理、日本料理、朝鮮料理等を経営する料理店は多く存在した。1890年まで、上海民衆の飲食の方式が多様化された。平日に家で食事することのほか、料理店で外食することも人気があった。当時の上海民衆は、外食費用が家庭の食費の総額の11-12%を占めていたと言われる。³外食は人気があったため、1879年から東洋茶酒館が上海で大変流行していた。東洋茶酒館とは日本料理の店のことである。最初の日本料理店の広告は、『申報』第2391号(1879.12.25)において掲載されている。

新開東洋茶酒館 啟者本館今新開專制東洋各式茶糕，包辦兩洋酒席格外公道。蒙貴官紳商賜顧者請來是禱。在上洋蘇州河邊舊鐵路旁 三盛樓告白⁴

(新設の東洋茶酒館 啟者、本館は新設であり、様々な日本の菓子をつくり、宴席を設ける業務も行います。価格は公正です。紳士、商人のご愛顧をお願い致します。蘇州河の旧鉄道の傍にある三盛楼から広告致します。)

三盛楼という日本料理店が、上海における日本料理店の元祖であると考えられる。三盛楼の設立は、多くの日本料理店が上海に進出する契機となった。翌年の『申報』第2685号(1880.10.20)に「更上樓告白」という広告が掲載された。

更上樓告白 啟者於本月十九日為始，特請諸國廚司東洋糕司，專辦英法大菜，日本新式茶點兼備。隨時熱炒、任意小酌。如欲另購茶食者，一□起碼裝盛穩固，以備遠方外埠。倘蒙賜顧格外周全，開設棋盤街東首五馬路便是。⁵ (□：印字不明)

³ 上海通志編纂委員会編『上海通志』(第9巻)、上海人民出版社、2005年4月、6437頁。

⁴ 申報社『申報』(影印版第15本)、上海書店、第2391号(西1879年12月25日、木曜日)、712頁。

⁵ 申報社『申報』(影印版第17本)、上海書店、第2685号(西1880年10月20日、水曜日)、447頁。

(更上樓告白 啓者、本店は今月の 19 日から営業を始め、諸国の料理人と日本菓子の料理人を招聘し、英仏料理と日本菓子を兼ね備えています。お客様のご愛顧をお願い致します。本館は棋盤街東の五馬路にあります。)

以上の 2 件の広告を比較してみれば、三盛樓が 1879 年に『申報』に広告を掲載した時、広告の対象を「貴官紳商」と明確に記した。このことから最初の日本料理店の消費者は高官と商人であり、社交活動の流行は高官や商人等の上流階級から始まったと推測できる。そして 1880 年に更上樓が『申報』に広告を掲載した時には、広告の対象に特定の社会階級を記入していない。したがって当時の日本料理店は、上海の各階級を消費者とする。上海の全社会に社交活動が普及したと思われる。この変化の過程で、「貴官紳商」という上流階級は、オピニオン・リーダーの役割を演じる。社会の変革は、上流階級から伝播してから、広く大衆文化になったと言える。

当時の上海民衆は、日本料理に関心が強くなるに伴い、日本料理店は上海以外の地方にも影響を及ぼしたようである。『申報』第 2933 号 (1881.7.2) において掲載されている「東洋酒館告白」にそのことが知られる。

東洋酒館告白 啓者本樓開設在上洋蘇州河邊舊鐵路橋堦第二十一號洋房內，業已有年。專制官禮茶食中外點心以及西式大菜、中東小食等件。味既佳美品皆精潔。數載以來盛蒙四方君子評重譽揚、首推一指，每以市肆中無有出於本樓之右者獎許之以，故風辰月夕座上之商客常盈。禮拜良宵杯內之酒醪不竭。本樓既感諸商客之下顧猶期貿易之興隆，因勉益加勉精復求精，所制各品格外精工，近來不但滬上生涯滔滔不息，即如外埠蘇杭亦頗有聞名，源源而來購者。今本樓復又添各式木盒木匣將各品食禮裝盛固，以備遠方外埠賜顧者水陸舟車均便帶寄，而價目又極爲減廉，以廣銷路特布數言以便周知 三盛樓主人謹啟⁶

(東洋料理店広告 啓者、本店は蘇州河の旧鉄道傍の第 21 号において開設して以来、数年間になります。本店は販売しているものには外国の菓子、西洋料理と日本料理が全て美味しく綺麗であります。各地からのお客様は、上海市内において三盛樓よりさらに良い料理店がないと褒めそやして下さることから、毎日愛顧者が本店に絶え間なくお越し頂いています。お客様に感謝するため、本店はさらに美味しく綺麗な料理を求めています。そのため本店の名声は、上海にとどまらず蘇州、杭州等の都市にも広がっています。上海以外の地方からの愛顧者も絶えることはありません。遠方からの愛顧者は軽便に料理を持ち帰ることができるように、本店は特別に様々な食品を盛る木製の箱を特製しています。販路を

⁶ 申報社『申報』(影印版第 19 本)、上海書店、第 2933 号 (西 1881 年 7 月 2 日、土曜日)、7 頁。

広げるため本店の料理の価格は極めて廉価です。以上の情報を周知して頂くように広告致します。(三盛楼主人謹啓。)

この広告から、三盛楼は数年間の発展を経て上海での賞賛の声だけでなく、蘇州、杭州などの周辺都市からも顧客が名を慕って来ていたようである。さらに多くの上海以外の客に美味しい日本料理が食べられるように、三盛楼は木製の弁当箱を作成し、持ち帰りの業務も増加した。このような方法で上海以外の顧客に、上海に来なくても三盛楼の日本料理が味わえる方法を考えたのである。この方法は三盛楼の名声在上海以外の地に影響を及ぼしたとみることが出来る。

『申報』の日本料理店の広告から、上海の日本料理店は上海民衆に受容されていたことがわかる。上海の日本料理店の顧客は、最初は高官、商人達の上流階級だけであったものが、次第に一般の民衆にまで拡大し、上海だけに止まらず次第に周辺の都市も広がっていたことがわかる。日本料理店が上海社会に定着したと見ることができる。

(二)劇場

日本料理店の他に上海に特筆すべきものに日本劇場がある。日本劇場での日本曲芸が上海において流行していた。最初の日本曲芸に関する広告は、満庭芳劇場と老金桂軒劇場である。両劇場が『上海新報』に掲載した 2 件の広告がある。『上海新報』新第 447 号 (1870.12.22) において掲載されている「東洋戯文」は、老金桂軒劇場の広告である。

東洋戯文 啟者本園戯文系奉本國皇之命前往日耳曼國開演，與日耳曼國皇觀看，道過上海便演數日。班中有四歲幼童能演人所不能演至戲，紙上行走如履平地。又有女子名阿多，善放紙蝶千只空中飛舞。另有各種奇巧戯文演出，諸君速來觀看，過此以往未必有此好戯文也，仍在石路上老金桂軒開演。此啟 十月十八日⁷

(日本曲芸 啟者、本座は日本国の天皇の命令を受けてゲルマン国へ公演に行く途中、上海で数日間の公演をする予定です。本座の 4 歳の子供が平地で歩くように紙で歩け、大人の芸人が演じられないことを演じることができます。また阿多という女子が千羽の紙チョウを空中に舞わせることができます。お客様のご観賞をお願い致します。この日本曲芸は、これまでで一番すばらしい公演であります。本座は石路の老金桂軒で公演致します。以上、広告致します。10月18日)

⁷ 『上海新報』(影印版第 7 本)、文海出版社、第 447 号 (1870 年 12 月 22 日、木曜日)、2869 頁。

最初上海で公演した日本の曲芸一座が、特に上海で公演する予定ではなかったが、当時の日本曲芸の種類、内容等の情報を知ることができる。日本曲芸の公演は当時の上海社会の民衆の注目を引付けた。多くの作家が日本曲芸の状況を描写した。有名な作家である王韜は、1875年に出版された『瀛壖雜誌』において次のように叙述している。

滬北近多東洋戲劇，大抵以緣繩踏竿爲長技，小兒能躡足高梯，在百尺竿頭飛舞，奇險莫名，殊令觀者心眩目。特有二少婦，圓領繡衣，風致翩翩，一善琵琶，雄壯悲涼，頃刻萬變，一碎紙做千百蝴蝶，上下飛翔，渾如身如花叢。他若于紙堆中出名燈數十盞，雨傘十余具，變幻倏忽要亦不過搬演之術耳。其有一人仰臥于台，以兩足承巨鼓，盤旋如飛或疊置數十箱，狀若累基，雖高而不墜，日本人呼之爲股技，此則具有真實本領者也。⁸

(最近、上海の北で日本の曲芸が演じられることが多いです。大部分は縄、竹竿でアクロバットを演じています。例えば、ある子供は高い梯子を登り、百尺の竹竿の頂上で躍動することができます。そのすばらしさは観衆達を眩ませました。特に風采の良い若い女子二人がいます。その中の一人は琵琶を弾きくに優れ、あつという間に勢いで、猛々しものや寂しい曲を万種の変化で演奏することができます。もう一人は砕いた紙で千羽のチョウを作り空中に舞わせ、観衆達に花の群れのように見せていました。ほかに紙の山から十数個の明かり、傘に変ずるといふことなどそれほど得意のようではありません。またある一人が舞台に仰向けになり足で大きな太鼓を支え、太鼓を飛ぶように旋回させました。この特殊技能は、日本で股技と呼ばれています。股技の演じ者は本当に実力があります。)

王韜の描写から、当時の日本曲芸が上海でも流行し、曲芸には様々な種類があり、すばらしい演出で観衆達を驚かせていた。このような日本曲芸に関する広告は『申報』によく見られる。これらの広告から最初の日本の曲芸一座は常に西洋の曲芸一座と一緒に公演していた。『申報』第1116号(1875.12.14)において老金桂軒劇場が、広告「丹桂茶園中西兩班合演」を掲載している。

丹桂茶園中西兩班合演 本園今有新到大英欽差口來大西洋小東洋琉球諸國奇巧古怪人物，兼有飛禽走獸一應俱全。該有一百餘套之數實有可觀，較前大不相同。茲暫借本園於十六夜開演至二點鐘止。而中國之戲七點鐘起至十點鐘止，接演外國新戲，此乃外國賽實獻能戲，

⁸ 王韜『瀛壖雜誌』、『筆記小説大観』（第二十七冊）江蘇広陵古籍刻印社、1983.4 初版、333頁。

價照舊無二決不多取，特此告白丹桂茶園告白⁹（□：印字不明）

（丹桂茶園で中国と外国の一座による公演があります。イギリス、大西洋、小東洋、琉球等の諸国の曲芸一座は、本園で公演します。突飛な人、鳥獸等の演技がすべてそろっています。外国の一座の演技は 16 日の午後 2 時までです。中国の一座の演技は 7 時から 10 時までです。続けて外国の一座が公演します。切符の値段は従来のままです。以上、丹桂茶園から広告致します。）

黄式権の『淞南夢影録』に東洋曲芸は、中国の奇術に類似し、「柔功」と「硬功」の区別があったことを述べている。たとえば綱渡りや変紙変蝶等である。中国奇術中の変紙変蝶など文戯に似たものは柔功と呼ばれ、竹竿のぼり、樽回しなどの中国奇術中の武戯に似たものは硬功と呼ばれた。客の興味を引き、家族を養い生活していくために、日本の芸人は大変な努力を重ね、その芸は非常に精緻なものであった。そのため中国人も自ら日本人の芸に及ばないのを嘆き、日本の芝居と中国の芝居は「同様の節目、日本藝人的技藝水平讓中國藝人都自愧不如（同一の技術ではあっても、中国の技芸を採求するものよりもはるかに勝っている）」としている。¹⁰日本の曲芸は卓越したわざと魅力を頼りに、上海社会に定着した。日本曲芸が上海で盛んであったことから、日本の興行者は日本人のみの演技者の劇場を創設した。最初の日本の劇場の広告は『申報』第 1927 号（1878.8.6）に掲載されている。

日商嘉福北園 啟者所有東京名班，以及馬戲新到石獅子等合口，東洋班主自運聯合上品角色名喚雙鳳兒八面風五彩口等在內全演。祈望諸公早降。仍在石路中聚秀園底下於七月初八夜起日夜開戲。價目照舊不加 特此佈致 本園告白¹¹（□：印字不明）

（日本の嘉福北園 啟者、日本の東京の有名な一座、曲馬団等は本園において公演します。

（中略）お客様のご観賞お願い致します。本園は石路の聚秀園の階下にあります。公演は 7 月 8 日の夜からです。切符の値段は従来のままです。以上、広告致します。）

この広告は『申報』にはっきりと署名を記する日本劇場の広告である。嘉福園劇場は、上海において日本人が開設した最初の劇場と言える。『上海新報』と『申報』に見える日本曲芸と日本劇場の広告から、上海における日本曲芸は日本曲芸の一座と西洋曲芸の一座と一緒に公演し、上海の劇場を借りて上演したとか、日本人による劇場を創設したことの経緯がわかる。この変

⁹ 申報社『申報』（影印版第 7 本）、上海書店、第 1116 号（西 1875 年 12 月 14 日、火曜日）、571 頁。

¹⁰ 小島勝、馬洪林編『上海の日本人社会』、龍谷大学仏教文化研究所、1999 年、35-36 頁。

¹¹ 申報社『申報』（影印版第 13 本）、上海書店、第 1927 号（西 1878 年 8 月 6 日、火曜日）、127 頁。

化から上海民衆は日本曲芸と日本劇場を受容していたことが知られる。その受容の過程から新しい市民の娯楽意識の変化をもたらしたことが分かる。

日本料理店と日本劇場は、上海民衆の社会生活を豊かにし、社会生活の様式を商業化、公共化へと推移させた。日本料理店と日本劇場の広告による宣伝から、日本料理店と日本劇場は当時の流行した社交場ともなった。1880年代から出版される『点石斎画報』には、日本の芸人が竹竿の上において足先でボールを操るという演技の場面を画いている。(図1参照) 図から日本の芸人が演技する現場に多くの男女の観衆が見られる。日本の芸人のすばらしい演出に観衆達は皆首を長くし、目を見開き、口を開け、驚きであっけにとられていた様子が知られる。

この光景は、当時の上海社会において日本曲芸の人気度を知る証拠にもなるであろう。当時の伝統的な男女観念に支配された上海社会にとって革新の意味があると言える。中国の封建的な観念では「男尊女卑」が堅持されていた。そのため女性は家に引きこもり、勝手に人前に現れることが無く社会の公共活動にも参加できなかった。しかし1860、70年代頃には、女性が遊びに出掛たり、男性だけが出入する茶館や劇場等の公共的な社交場に出て行くことが次第に流行していったとされる。¹²1880年代には、女性が遊びに出掛け、社交場所に入出入りすることは上海では普通に見られる光景となった。いわば日本料理店と日本劇場の流行が当時の社交形態にも変化をもたらし、社会風俗の開化にも一定の作用を与えたと言える。

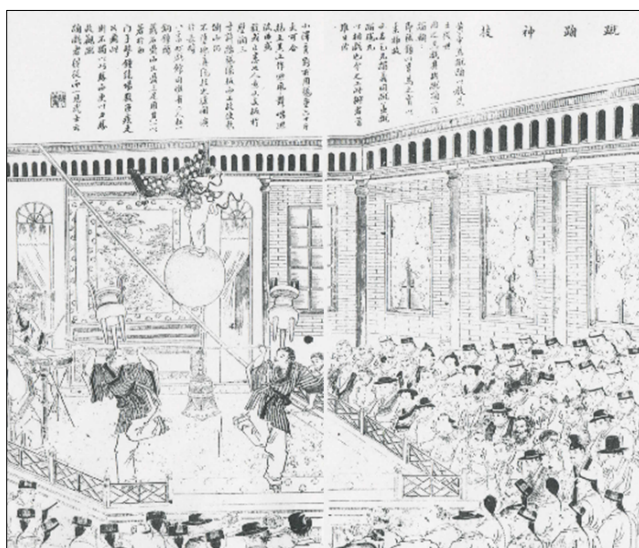


図1 日本芸人のボールを操る演出図¹³

¹² 前掲李長莉『晚清上海社会的変遷』、428頁。

¹³ 『点石斎画報』(影印版第六輯26冊)、(53)醜八蹴鞠神技、天一出版社、1978年7月、6-7頁。

三 日清戦争から第一次世界大戦までの日本広告と社会生活様式の変遷

日清戦争以前、上海における日本の商人は主に伝統的な芝居屋、茶館、料理店を開設したことに比べ、戦後はより多くの日本の商人は現代的な娯楽、社交のための社交場に投資していた。社会生活と関係のある日本広告は、主に劇場、映画館、花園、旅館、料理店等の社交場を宣伝する広告である。これらの社交場は現代化と両極化の特徴を備えていた。特に、両極化は、大衆的な社交場と洋式の高級な社交場に分けられていることを意味する。日本広告からみると、上海民衆の社会生活様式の変遷は単一性から多様化、両極化までの進化であると言える。次にその具体的な事例を挙げながら深く考察していきたい。

(一)大衆的な社交場

樋口弘著『日本の対支投資』によれば、当時の在華の日本系の小企業が娯楽的な性質を帯びた社会場所に投資することが多くなった。¹⁴日清戦争以前と比べ、日本人経営の社交場は、茶館と芝居屋のみならず、より多くの大衆的な社交場が増えていた。『申報』に関連した広告からみれば、主に各種類の公演の場所と 20 世紀の初頭に上海で大人気の映画館等があった。したがって、大衆的な社交場の特徴の中の 1 つは多様化である。伝統的な日本の曲芸のほか、マジックショー、雑技、サーカス、文明新劇及び映画等を上演する場所がたくさんあった。

上海における新劇に関しては、阿片戦争の直後、欧米から西洋文明劇が上海に流入した時に始まる。その後に、新劇は歌劇と並んで広く流行するようになった。例えば、1860 年イギリス人とアメリカ人によって「ADC」という劇団が創立され、また同年南市の外馬路において「新舞台」という劇場が設立された。これらの劇場は民衆の好みに合わせるため、洋式のセットと照明設備を装備した。¹⁵20 世紀に入り、日本の商人も新劇の劇場を開設した。『申報』第 13288 号 (1910.1.31) において日本の新劇場に関する広告が掲載されている。

新劇場廣告 大劇場現從日本運到各種奇異幻彩新式布景，其中變化莫測栩栩如生，使觀者竟若身曆其境，實為從未見過之物。擇於本月廿二日封箱，以更布置一切。並請各家紮成各種燈彩排演新戲，擇於新正元旦日夜開演務祈紳商士女早光是荷。¹⁶

(新劇場の広告 新劇場は日本から各種の珍しい新式セットを購入しました。臨場感があって、観衆にその場にいるような気にならせることができます。元旦から、朝から夜まで

¹⁴ 樋口弘『日本の対支投資』、慶応書房、1940 年 9 月、109 頁。

¹⁵ 高福進『洋娯楽業の流入：近代上海の文化娯楽業』、上海人民出版社、2003 年 1 月、12 頁。

¹⁶ 申報社『申報』(影印版第 104 本)、上海書店、第 13288 号 (西 1910 年 1 月 31 日、日曜日)、544 頁。

公演します。お客様のご到来をお待ちしております。)

また、上海は中国の映画事業の水源地となり、活気にあふれる映画館は当時人気の社交場になった。当時の有名な映画館は北四川路にあるピクトリア西国映画館と乍浦路にある東京活動映画館等である。特に東京活動映画館は『申報』において頻繁に目にすることが出来た。1915年「日貨排斥運動」まで殆ど毎日『申報』において広告を掲載していた。例えば、『申報』第14760号(1914.3.16)において東京活動映画館は以下のような広告を掲載している。

東京活動影戲園 開設在美界乍浦路中西書院北首第一百二十號門牌 本園開幕以來 所演各片莫不光明新奇, 久蒙各界歡迎有目共賞, 故本主人格外注意, 不惜重金特向外洋各廠定制, 各色異彩風景、歴史、争戦、滑稽、偵探、愛情等片, 刻已陸續到申。每逢禮拜二五全行更換新片, 務請各界諸君光臨一觀, 方知言之不謬矣。租金之日頭二三四五本、羅馬旁貝城、古京之末日, 價目登樓每位三角、頭等每位二角、二等每位一角。¹⁷

(東京活動映画館 アメリカ租界の乍浦路の120号にあります。本館は開業して以来、上映する映画は目新しいもので、各界の人々に大変人気があります。本館の主人はお金を惜しまなく、外国の映画製作所に風景、歴史、戦争、喜劇、探偵、愛情等種類の映画を注文しました。毎週の火曜日、金曜日に新しい映画を上映します。お客様のお越しを楽しみにしております。今週の映画は「租金之日」、「羅馬旁貝城」、「古京之末日」です。入場料は、二階の個室が3角であり、一等席が2角で、二等席が1角です。)

東京活動映画館は当時有名な映画館として、大変人気があった。毎週違う映画を上映し、内容も非常に豊富であった。『申報』第14784号(1914.4.19)に掲載されている広告によると、上映された映画は上記の第14760号に掲載された映画と違い、「紐約海濱之自升大炮」、「嬉言中之實話」、「混亂黨之客棧」、「衛夫氏出醜」等であったことが分かる。

日本人経営の大衆的な社交場のもう1つの特徴は一般の民衆でも支払うことができる安い入場料である。西洋国家の華麗な社交場所及び高い入場料と比べ、日本人経営の社交場が一般の民衆にとって気軽に利用することができる。この特徴によって、上海民衆は多様な娯楽場所において社交活動を行うことが現実できた。20世紀の初頭に上海の一般の労働者家庭の平均月収は33元であった。¹⁸『申報』の日本広告から、日本人経営の大衆的な社交場所の入場料が分かる。『申

¹⁷ 申報社『申報』(影印版第127本)、上海書店、第14760号(西1914年3月16日、日曜日)、252頁。

¹⁸ 楼嘉軍『20世紀初期上海城市娛樂体系的演變』、『歴史教学問題』、2006年第4期。

報』第 13214 号 (1909.11.16) において掲載されている「日本火車跳戲」という広告から入場料の安さが分かる。

東洋火車跳戲 本公司初次來滬，今挽親友聘請特別火車戲，滿洲日俄兩國戰爭火車內，活動自轉行走旅順奉天大戰，此戲到過大日本東京皇城看過數次無不稱贊拍手。今聘來申並無見過，可稱獨步之妙手，欲曠眼界福望請諸公試之幸勿錯過。西十一月十五號即華十月初三日開演，頭等大洋二角二等大洋一角，風雨無阻每日一點鐘起夜十點鐘止。滿洲日俄戰爭鐵路公司在上海虹口海寧路惠師捕房間壁便是。森本岩次郎○原村鐵造告白¹⁹

(日本の汽車跳戲 本社ははじめて上海にきて、上海の觀衆ために汽車跳戲を上演します。出演者は、滿洲の日露戦争の汽車を自由に動かすことができ、旅順奉天大戰を上演します。東京においてこの公演を見た觀衆は、皆拍手して賞賛の声をあげました。上海の觀衆にとっても唯一無二な公演とでもいうべきです。お客様のお越しを楽しみにしております。11月15日即ち陰曆10月3日から開演します。一等席は銀幣2角で、二等席が銀幣1角です。毎日午後1時から夜10時まで上演しております。公演場所は上海虹口海寧路惠師警察署の向かいにある滿洲日露戦争汽車公司です。森本岩次郎、原村鐵造が広告致します。)

当時人気があった東京活動映画館の入場料も、『申報』第 14513 号 (1913.7.13) において掲載されている広告から分かる。

東京活動影戲園 開設在美界乍浦路第一百二十號門牌 注意本園不惜重資，將每套影畫片之題目及其曆史，詳細由西文譯出中文，俾各位華觀客一視而悉，影畫片滬上從來未有演過，請速來觀為幸。夏天夜夢○制煙之情形○自恨身口毫大○飛艇大戰○日本新劇會我兄弟○東洋跳舞○汽車大盜○埃及國淫女皇 價目 登樓正廳起碼每位三角二角一角。²⁰(□:印字不明)

(東京活動映画館 アメリカ租界の乍浦路 120 号にあります。本館は各位の華人觀衆のために、お金を惜しまず、毎場の映画の題目と歴史背景に関する欧文を中国語に翻訳しました。すべての映画はこれまで上海で上映されたことがありません。夏の夜の夢○煙草の製造○飛行船大戰○日本新劇會我兄弟○日本踊り○自動車強盜○エジプト女皇帝 席によって入場料は1名で銀幣3角、2角、1角です。)

つまり、一等席の入場料は銀幣2角から3角まで、一般の労働者家庭の月収の1/165 から1/110

¹⁹ 申報社『申報』(影印版第103本)、上海書店、13214号(西1909年11月16日、火曜日)、244頁。

²⁰ 申報社『申報』(影印版第123本)、上海書店、第14513号(西1913年7月3日、木曜日)、40頁。

までを占めた。三等席の入場料は銀幣1角であり、労働者家庭の月収入の1/333を占めた。²¹したがって、廉価の入場料は普通民衆の社会活動の能力を高めるものと考えられる。

日本人経営の大衆的な社交場の最後の特徴は、上海社会の発展趨勢に順応し、日本の伝統的な社交場の衰退及び現代的な社交場の隆盛である。日本の伝統的な茶館が次第に振るわないようになったことを意味している。上海の民衆が多くの娯楽生活の要求を満たすため、新しく開業される娯楽場所が雨後の竹の子のように現れてきた。映画館、ダンスホール、バー、コーヒー店等の視聴覚の娯楽効果が一体となる社交場をもたらした衝撃に対して、茶館は粗末な娯楽施設であって単一サービスしていたから、20世紀の上海民衆にとって吸引力がなく、時代に淘汰されたのである。このことも20世紀初期から上海の都市娯楽体系が更新、整っていった過程の中の価値傾向が反映されている。30年代になると、茶館の開業率は次第に少なくなった。『申報』において日本の茶館の広告は次第に見られず、それに代わったのは日本の新劇場と映画館の広告である。

『申報』における様々な日本広告から、日本人経営の社交場の発展が上海民衆の大衆的な社会生活様式にもたらした影響が分かる。『上海に生きた日本人』によれば、当時上海の呉淞路と海寧路の一带は日本の劇場や映画館、バー、ダンスホールが集まって、非常ににぎやかであった。²²

(二) 洋式の高級な社交場

大衆的な社交場のほか、両極化の一極である西洋式や小衆化の社交場が現れるようになった。主に日本人が建造した高級な庭園と旅館である。日本人と外国人の上流階級、エリート、有名人のみが入ることができる。そこには、なぜ日本人が高級な社交場を建設したかという点、明治維新の時期に「脱亜入欧」という考えが日本に提唱されていたことが、日本人に西洋文明に対する崇拝をもたらすようになったからである。上海の埠頭が開放された初期において欧米人が建造する公園、クラブ等の社交場は、ただ西洋人に対して開放されていた。華人と日本人は入ることを禁止された。²³そのような大きな汚辱を被ることによって、日本人が強い刺激を受けた。そこで、西洋人に国力の強大を示すため、自分の庭園と旅館を建造した。ただし、日本の公園と旅館は主に上流階級とエリートだけに開放することになった。

まず、庭園に関しては、六三花園が上海の一番有名な日本の庭園に数えられていた。六三花園は、その特有の日本式庭園ゆえに上海における日本文化の象徴的な場所となり、日本の境界

²¹ 楼嘉軍『20世紀初期上海城市娯楽体系的演變』、『歴史教学問題』、2006年第4期。

²² 陳祖恩『上海に生きた日本人』、大修館書店、2010年7月、122頁。

²³ 前掲高福進『洋娯楽業的流入：近代上海的文化娯楽業』、13頁。

の要人や居留民の中でも上層の人物や貴賓を接待する宴会の場所となった。また、六三花園において、中国の有名な政治家孫文、画家齊白石、文豪魯迅、郁達夫らは日本の友人から招待を受けて、桜の花見を楽しんだこともあった。²⁴

六三花園の影響を受けて、上海においてたくさんの日本式の花園が現れるようになった。『申報』第 13105 号 (1909.7.30) において怡情園という庭園が「日商新開怡情園本月十五日開張」という広告を掲載した。

日商新開怡情園本月十五日開張 本園開設泥城橋外靜安寺路朝南膠洲路，即是□園舊址創立有年，樹木繁□、奇花野草、荷池曲折、亭棧樓閣軒宇宏敞、空氣充足、宜合衛生之要，□布置大□尤工點綴夫。今日花園林立咸以避暑之說，而衛生之一□安能履全乎，苟可通霄達旦盛露風霜之□本國開幕有鑒於斯特為保衛起見，精擇清涼消暑品茗衛生大京菜蘇小酌各色炒面中西點心，聘請東洋跳戲西樂鼓吹京都著名奇異與眾不同特別戲法，廣東煙火林步青攤簧電光影戲，色色齊備備備。供中外紳商界各□名媛淑女惠顧自當一律歡迎請嘗試之方知不謬焉。²⁵ (□：印字不明)

(日本の商人によって建造された怡情園が、本月の 15 日に開業します。本園は、泥城橋にある靜安寺路の南にあります。生い茂った樹木と珍しい草花が多く植えられました。あずまやと樓閣がそびえていて、空気が大変新鮮で、環境が非常に良いです。現在大部分の上海の花園が避暑のために建造されましたが、良い環境であるかどうかは特に注意は払われませんでした。こうした状況にかんがみ、怡情園は、暑気を取り除く食品、北京料理、蘇州料理、やきそば、お菓子を供給し、日本跳戲、西洋楽団、北京の雜術、広東の花火を催し、さらに映画を上演します。中外の紳士、商人、淑女のご到来をお待ちしております。)

広告における「今日花園林立咸以避暑之說 (現在大部分の上海の花園が避暑のために建造されましたが)」という文から、当時上海において各国の花園がいっぱいあったが、それらの花園の役目はただ避暑地であった。日本の花園は、魅力にあふれた景観があり、美味しい各国料理を提供し、各国の戲、花火、映画等の娯楽を提供した。多様な娯楽を備えたものであったと考えられる。また、「供中外紳商界各□名媛淑女惠顧 (中外の紳士、商人、淑女のご到来をお待ちしております。)」(□：印字不明) という文から、当時日本の花園を利用した対象は、主に中国とそのほかの外国の官僚、紳士、商人、有名人、上流階級の淑女等の社会地位がある人達であ

²⁴ 前掲陳祖恩『上海に生きた日本人』、29-30 頁。

²⁵ 申報社『申報』(影印版第 101 本)、上海書店、第 13105 号 (西 1909 年 7 月 30 日、金曜日)、435 頁。

ったことが分かる。一般の上海民衆にとってどうしても利用できない社交場であった。

次に、もう 1 つの社交場は日本の高級な旅館である。上海に日本旅館が開設されるようになると、宿泊だけでなく多くの宴会が旅館の食堂で行われるようになった。豊陽館、万歳館、増田旅館等が当時一流の旅館である。²⁶また、クラブ等の上流階級の活動も旅館で行われていた。『申報』第 14852 号(1914.6.16)に日本の万歳館という旅館が顧客を招く広告を掲載している。

日本旅館萬歳館 虹口西華德路七號門牌 本館開設上海多年現在大加擴充裝飾華美被褥淨潔殺饌精優伺應周到既無臭蟲又無蚊蟲殊為旅館中之特色房間有東洋式有西洋式飯食有西洋餐有中國菜聽客自便如蒙中國官紳商界光顧謹當極意歡迎價值格外從廉倘或不信請嘗試之曷勝欣盼特此布告電話一〇八三²⁷

(日本の旅館万歳館 虹口西華德路 7 号にあります。本館は上海に開設されてからは長い歴史があります。改装した後、内装と外装は大変煌びやかで、布団が清潔で汚れがありません。そして、料理は非常に美味しく、サービスが大変周到です。トコジラミと蚊もいません。一流の旅館に値します。部屋は日本式、西洋式があり、料理も西洋料理と中国料理があります。中国の官僚、紳士、商人等のご到来をお待ちしております。以上、広告致します。電話 1083 です。)

この広告は、日本の万歳館が特に中国人を招くために掲載した広告である。「如蒙中國官紳商界光顧(中国の官僚、紳士、商人等ご到来をお待ちしております。)」という文から、当時万歳館の主要な中国人の消費者は官僚、紳士、商人等の上流階級であることが分かる。それは、当時の一流の日本の旅館では、日本酒一瓶が 0.2 元、ビール瓶が 0.25 元、宴会料理は一人 1.5 元という価格で、「六三亭」ではさらに高く、日本酒一瓶が 0.25 元であった。日本旅館の酒の値段は日本国内の倍以上はした。²⁸そのような高い価格は普通の民衆にとっては想像できなかった。つまり、上流階級のための純粋な社交場を提供するものと考えられる。

当時の上海において日本人と中国人の上流階級のほか、西洋人も日本の高級な社交場で行われた宴会に参加した。なぜ日本の高級な社交場が上海の上流階級にとって重要な地位を占めたかという点、それらの社交場は非常に濃く独特の風格があり、社交の趣を増加することができたからである。例えば、三井銀行の支配人が、フランス租界において別荘を買い、多くの桜を植え、毎年桜が咲く時節に「桜ダンスパーティー」を行ったところ、西洋人と中国の上流階級

²⁶ 前掲陳祖恩『上海に生きた日本人』、69 頁。

²⁷ 申報社『申報』(影印版第 128 本)、上海書店、第 14852 号(西 1914 年 6 月 16 日、火曜日)、739 頁。

²⁸ 前掲陳祖恩著『上海に生きた日本人』、69 頁。

は次々と参加した。日本人の独特の桜ダンスパーティーは上海の上流階級から注目された。しかしながら、やはりこのダンスパーティーもただ政府官僚、商人等の上流階級の社交需要を満足させただけであった。

四 おわりに

上述のように、上海における代表的な中国語新聞である『上海新報』(1861年-1872年)と『申報』(1872年-1914年)に掲載された日本人経営の社交場の広告を対象にし、上海民衆の社会生活様式の変遷との関係について述べた。その変遷は日清戦争を時間的基軸として、前後に大きな差異がある。戦前、上海民衆の社会生活様式は伝統的なものから現代的なものへと変化し、戦後社会生活様式は単一性から多元性、両極化までに変化した。具体的には戦前の日本広告は主に日本茶館、日本料理店と日本劇場を上海民衆に宣伝していた。その結果、上海民衆の社会生活様式の観念は次第に変化し、旧来の家族を中心にする形態から、個人を中心にして公共的な社交場における社会生活様式に推移した。戦後の日本広告において日本人経営の社交場が雨後の竹の子のように現れた。これらの社交場は、時代の発展に順応し機能性によって大衆化と高級化へと両極化するようになった。そのため上海民衆の社会生活様式が、一般大衆と上流階級の生活様式に両極化する結果をもたらした。

これらの社交場の広告は伝播者とし、まず新たな社交観念を上流階級に伝えた。上流階級はオピニオン・リーダーの役を担って、社交観念を全社会の民衆に普及させた。時代の発展に順応し、社会生活は民衆にとって娯楽のためであり、上流階級にとって社交ためであるというように両極化していた。日本広告は上海民衆の生活様式の変遷、社交様式の変化、人間関係の拡大、社会風俗の開化等の方面に一定の影響を与えた。しかも女性が遊びに出掛け、社交場に入りすることは、社交場の普及によって上海では普通に見られる光景になった。当時の伝統的な男女観念に支配された上海社会にとって革新の意味があったと言える。したがって日本の社交場の流行が当時の女性の社会的地位向上へも一定の効果を与えたと言える。